

## 第41回学校評議員会 会議録

平成31年2月4日（月） 10:00～11:30

弘前高校応接室

出席者 学校評議員 5名…赤石茂氏、木村直美氏、中根明夫氏、敦賀鉄正氏、川村能人氏  
学校側 校長、教頭（司会）、事務長、教務主任  
進路指導主任、生徒指導主任、教務部員（記録）

欠席者 なし

### 1 校長挨拶

校長 : 新学習指導要領にともない、「主体的で対話的な深い学び」を推進するための授業改善が試みられ、どの授業でもアクティブ・ラーニングが導入されている。総合的な学習の時間における生徒の研究発表は非常に興味深いものが多かった。たとえば、全国紙と地方紙のある特定のニュースの取り上げられ方の違い、弘南電鉄の利用促進のための方策、憲法解釈に関する検討、夜間照明の節約のために植物に蛍光塗料を取り込み発光させるなど、面白いユニークな視点で研究発表がなされていた。現在、生きる力を養うための問題解決型学習が求められていて、来年度から総合的な探究の時間において1学年でも課題研究を取り入れていくことにした。これからは、生徒が自ら考えて問題解決のために他者と協働・協力していくことが求められている。評議員の皆様には、1年間の総括として忌憚のないご意見をいただきたい。

### 2 現状報告

教務部 : ○弘前高校説明会アンケート結果について  
・近年は生徒の目線から弘高を知ってもらう取り組みを行っている。生徒が作ったVTR紹介や生徒によるディスカッションなどが良かったという意見が中学生から多くあげられていた。これらは次年度以降も継続していきたい。また、実際の授業を見て、弘高の授業の様子を知りたいという意見もあるので、検討していかなければならない。  
○平成30年度青森県立弘前高等学校中高連携協議会について  
・参加した中学校の先生が昨年度の2倍となった。生徒が中学校から高校に進学したときに授業についていけない場面があるため、中学校での状況も含めて、改善するための意見交換がなされた。今年度は理科における意見交換を行った。アクティブ・ラーニングでの授業が多いのが印象的だったという意見や、高校の先生にも中学校に来てもらって、現状を見てもらいたいという意見があった。  
○授業アンケートについて  
・昨年度のアンケートと比較すると、AやBの評価が比較的多かったものの、これらを教

員の授業改善に役立てていく。

○平成 30 年度学校評価について

- ・「本校に入学させてよかったですか？」という質問は例年高い評価を受けているが、教員の授業における力量・指導力を更に高めていきたい。
- ・保護者からのアンケートでは、様々な意見を頂戴した。生徒のみならず、家庭にも学校で行われていることを伝え続けなければならないと感じている。設備については、事務部をお願いしてすぐに改善できるものもあれば、なかなか改善するには難しいものもある。

○職員による自己評価について

- ・昨年と大きな変化はない。各分掌・学年の状況改善に役立てたい。

生徒指導部 : ○生徒指導全般について

- ・自転車運転中の事故は昨年度より少なかった。
- ・年間活動においては、さまざまな行事で生徒の成長を目指している。
- ・遅刻・容儀・挨拶などの指導は、禁止や命令ではなく、生徒との対話の中で解決させていくことを目指している。

○部活動各種大会上位入賞者について

- ・今年度は硬式テニス部の高校総体女子団体優勝が特筆される。

進路指導部 : ○学習状況調査について

- ・1 学年は、英数国の学習がなかなかうまくいっていないと感じる生徒が多い。
- ・家庭学習時間について、2 学年は昨年度より増加傾向にある。

○進路志望調査について

- ・1 学年は、前回の調査よりも東北大学など難関大学志望者が増加している。医学部医学科は志望者が絞られている。
- ・2 学年は、東北大学志望者が一番多い。

○3 学年の合格状況、出願状況について

- ・AO や推薦などの結果が判明してきている。AO や推薦志願者 48 名のうち、現時点で 7 名が合格。27 名はこれから結果が判明する。

### 3 校内一巡

校内一巡（授業参観）

#### 4 意見交換及び質疑応答

評議員木村氏：音楽は加わりたくなるような授業だった。学校は知識の宝庫だと実感した。先生も生徒も一生懸命だった。運動会やねぶた運行では、クラスの一体感など普段見られない姿を見ることができた。授業に関しては、先生方がさまざまな工夫を重ねたからできる授業だと思った。情報の授業は、ITの進歩がすごいと感じた。生徒はすぐに先生に指示されたことをできる。情報のプロフェッショナルである。

評議員赤石氏：弘高のねぶたは生徒自身を作ってくれと感じた。3学年のねぶたは今年は特に素晴らしかった。生徒の成長は先生方の努力があつてこそだと思った。今の授業内容はとても難しいが、それについていく生徒は凄いなと思った。今の生徒は本当に幸せだと思う。環境も恵まれているし、先生方の熱意もある。家庭でも大事にされていると感じる。あいさつもしっかりしている。これからどんどん立派な生徒が出てくると感じた。

評議員中根氏：生徒のパワーポイントの使い方が上手いと感じた。課題研究はどのような評価をしているかお聞きしたい。

教務部：系統ごとの発表と、体育館で代表者が発表する場面を設定している。自己評価・教員側の評価のためのルーブリックを今後作っていく。評価がつくのではなく、総合的な学習の時間の1単位が得られる。

評議員中根氏：大学での専門科目はアクティブ・ラーニングしづらい科目もあるが、高校ではどうなのか。

教務部：やりやすい科目とやりにくい科目があり、グループワークやペアワークは必要に応じて行っている。

進路指導部：画一的なやり方はないが、先生方は研修などを通して学習し、授業内の発問の仕方が、生徒にいかにか考えさせるかということに重点を置くようになった。どの先生方も意識が変わってきている。

評議員敦賀氏：最終的な進路選択は生徒がするので、先生方は生徒とのコミュニケーションを大事にしてほしい。また、部活動も生徒の疲れがあるので、土日のうちどちらかを休みにするなど工夫をしていただくとありがたい。また、1学年の家庭学習時間が例年より多いと感じる。これは初期指導のおかげではないかと思う。課題研究は生徒が自分でテーマを選んでいるので、それが進路選択どのように影響を与えるか、卒業後の進路も含めて追跡調査ができるのであればしてほしい。

評議員川村氏：数学が高度になっている。総合的な学習の時間では、テーマごとに違う視点があつて面白い。総学の課題研究は、どのようなカリキュラムで実施されているのか。

教務部 : 2学年で実施する。ある程度まとまった時間を作って実施している。夏休みには出校日を作り、生徒が研究したり、大学などに話を聞きに行ったりする。実験などは期間が長いほうが効果的なので、そこが改善点である。

教頭 : 1週間に1時間設定されているが、数学のように予め内容が設定されるのではなく、何を研究テーマとするかは生徒自身に決めさせるものである。好きなことを調べるとこれだけの研究をしてくる。

評議員川村氏 : これは他の学校でも実施されているのか。

教務部 : 他の学校でも実施されており、各学校で様々な取り組みが行われている。来年度入学者から名称が「総合的な探究の時間」に変更となり、本校では、より課題研究がメインとなってくる。

## 5 学校関係者評価について

教頭 : 生徒の評価、保護者の評価、教員の評価を行った。その結果を今回の資料に総合的にまとめた。以下、重点目標への自己評価である。

「1. 確かな学力の育成」について

単に進路実績のためではなく、生徒の生きる力のためになっているかを踏まえて、評価をBとした。

「2. 豊かな人間性と社会性の育成」について

弘高ねぶたがあることで、生徒はさまざまな役割などを学んでいる。生徒は一生懸命頑張っていると思ったのでA評価にした。また、いじめアンケートの結果はゼロであり、さまざまな活動を通して他者への思いやりの心を持つことが、いじめの未然防止にもつながっている。

「3. キャリア教育の推進」について

総合的な学習の時間でも自分の進路に関して学部学科研究をし、また自分の興味関心に応じて調べる学習をさせている。我々の体制はまだまだなので、B評価にした。

「4. 重点校としての任務の遂行」について

地域のリーダーとなる学校として、県から重点校の依頼を受けている。進路指導部はじめ、弘高が中心となって、地域の生徒とともにさまざまな取り組みが行われている。3に同じくまだまだ完璧であるとは言いがたいので、B評価にした。

先ほど各評議員から頂いた意見を取り入れながら、再度検討し、県に提出する。

## 6 その他

評議員木村氏： 近年は少子高齢化が現実のものとなっている。弘前の街などを見ても若い人が少なくなったように感じる。高校生がこの現実を身近に感じ、青森県にどのように貢献できるか、自分の将来と青森県の将来につながりを持たせるような教育活動を高校にはしていってほしい。

校長： 評議員の方々の貴重な意見ありがとうございました。先ほど生徒指導部からもあったように、生徒に自ら考えさせて、行動するようにさせたい。最後に、生徒が10年後、地域や社会にどのように貢献していくのかという将来像を持たせていくことが学校の役割であると思うので、このことを踏まえながら教育活動を行っていきたい。本日はどうもありがとうございました。